

# 開発途上国研究者の情報生産と利用

## —医学分野における HINARI イニシアチブが与える影響—

城山 泰彦 (KIYAMA, Yasuhiko)  
順天堂大学図書館

### 1. 研究背景と目的

データベース(DB)上の学術文献数は、上位10か国の累積で全世界の67.0%、上位40か国で95.3%を占める。一部の国で多くの学術文献が生産される一方で、数は少ないながらも多くの開発途上国からも生産されている。開発途上国の学術情報環境は、先進諸国とは大きく異なる。2000年の世界保健機関(WHO)の調査では、低所得国の研究機関で有料の学術雑誌を1誌も購読していない機関が56%に及んだ。またアフリカ5か国における医師の主要なInternetアクセスポイントは、Internet Caféが47%で最も多かった。従来から学術情報格差の解消を目的とした資料寄贈などの取組みは行われてきたが、WHOは2002年に、開発途上国の研究者に医学系電子ジャーナルのアクセス権を提供するHINARIを開始した。

学術情報入手の機会が限られていた開発途上国の研究者にとって、HINARIが与えた影響は大きいと考えられる。そこでHINARIによる一定の効果があがっているとすれば、これまで学術情報に乏しかった研究者の情報利用や情報発信に、変化が生じていることが予想される。本研究では、HINARIが開発途上国の研究者に与えている影響や効果を検証する。

### 2. 調査項目と調査方法

HINARIの概要と開発途上国における学術情報環境を、文献調査により明らかにした。次に全世界とHINARI参加国の学術文献について、計量書誌学的手法を用いて分析を行った。

### 3. 結果と考察

HINARIの参加機関は、108か国の2,860機関である。提供雑誌は2002年の約1,500誌から2009年5月の6,350誌に、年間の文献ダウンロード件数は2004年の170万件から2007年の400万件へと増加した。DB上の年ごとの文献数は全世界でゆるやかに増加するが、HINARI参加国は2002年を境に急激に増加していた。DB上の文献数に占める医学文献の割合は全世界で減少する一方、HINARI参加国では増加していた。そしてHINARI提供誌の文献では外国機関との国際共著文献が増加し、引用文献にはHINARI提供誌(特に商業出版誌)の割合が増加するなどの変化がみられた。これらからHINARI参加国の文献数、特に医学文献の増加が明らかであり、HINARIが開発途上国の研究者に与えている影響を確認できた。

HINARIが開始されて学術情報を得る機会が創出されたことにより、開発途上国研究者の研究活動に影響を与えていることが確認できた。HINARIでは単に学術情報を提供するだけでなく、図書館のように情報の使い方も伝えている。本研究のようにHINARIが与える影響を様々な観点から調査することにより各方面から評価し、開発途上国研究者の情報利用の現状と情報ニーズを掴むことが望まれる。HINARIのような取り組みを継続的に展開していくことが、最終的には開発途上国の国民の健康増進につながるのではないかと考える。